もう一度、会いたい

チーム力でまちづくりを推進する

森一峻さん

近年、移住者が活躍するまちとして注目を浴びている東彼杵町に、以前取材した「Sorrisoriso」に続く第二の交流拠点「umino わ」が誕生していると聞き、足を運んだ。五年前と変わらない笑顔で出迎えてくれたのは、移住者のサポートをする「東彼杵ひとこともの公社」の代表を務める森一峻さんだ。

大きな三角屋根が印象的な「umino わ」には、地元の企業が運営する飲食店や食品のセレクトショップのほか、コインランドリーが併設されており、地産地消にこだわった美味しいごはんや東彼杵町ならではの商品を求める人たちで連日、賑わっている。

東彼杵町は、ここ十年で移住者が約五百人増え、六十六社の会社が創業したという。人口約七千三百人の町で、この数字は驚異的だ。もちろん、そこには森さんたちの活動も大きく影響している。「ひとこともの公社は、ゆるりとした団体です。移住者の方たちはショップや宿を開いたり、地元の企業で働いたりと、さまざまです。そうした方たちと地域の人たちがそれぞれ自身の営みを大切にしながら、何かプロジェクトが立ち上がると、集まってくれる。ガチガチの組織ではなく、お互いの立場や考えを認め合い、共感する仲間が自然と集まって活動を続けています」。

移住者である「さいとう宿場」を営む齊藤ご夫妻に町の魅力を尋ねると「便利な田舎」という答えが返ってきた。いたるところに自然がありながら、生活は不便ではない。都会にはない空気感の中で、充実した日々が送れているという。また東彼杵町出身で活動に参加している山本麻美さんは「昔は閑散としていた通りを観光客が楽しそうに歩いている姿を見て、嬉しく思っています」と話す。

地元の人とUターン、移住者の人たちがゆるりとつながることで、心地よい暮らしやすさが生まれる。こうした森さんたちのまちづくりの取り組みは高く評価されており、「地域づくり表彰」国土交通大臣賞をはじめ、さまざまな賞を受賞している。

「umino わ」は国道三十四号線沿い、目の前に大村湾が広がる気持ちの良い場所に建つ。施設名は「輪を生み出す」という願いを込めて付けられた。まちづくりは「みんなで一緒に輪になって」やるから面白いのだろう。

過去の森さん紹介号！
ni-ko-ri
No.48

ものづくり企業「URANO」の社員食堂と銘打った「社食ごはんウラノ」では、定食やカレーなどが味わえる。米、卵、野菜、醤油、味噌にまでこだわった手作りごはんは大人気。

菓子問屋・フルカワが展開する「ful TABLE&IDEA」には「くじら最中」をはじめ、東彼杵町らしい商品や輸入食品、オーガニック食品などが並ぶ。